

南海トラフ巨大地震の発生確率 80%に UP



「発生確率が上がったのは、なぜ??」

それは、「南海トラフ地震は、過去に 100~200 年程度の間隔で繰り返し発生しており、最後の地震（946 年 昭和南海地震：M8.0）から時間が経過するにつれて、発生する確率が徐々に上昇します。そのため、以前の「70~80%」から「80%程度」へと引き上げられました。

特に、1944 年の昭和東南海地震や 1946 年の昭和南海地震の前にも、日向灘で地震活動が活発化していたため、近年の地震にも警戒が必要

昨年、8月に日向灘沖地震で、「南海トラフ巨大地震臨時情報（巨大地震注意）」が発表されたのは、記憶にあるでしょう！

準備できていますか??

あなたの会社の業務の継続・スタッフの安否確認

南海トラフ臨時情報（巨大地震計画）への備え・BCP

BCP は、スタッフの雇用・業務継続のかなめ！！



☆BCPとは??

BCP (Business Continuity Plan) は、「事業継続計画」と訳されています。



BCP (業務継続計画) とは、企業が自然災害、大火災、テロ攻撃、感染症などの**緊急事態に遭遇した場合において**、事業資産の損害を最小限にとどめつつ、中核となる事業の継続あるいは早期復旧を可能にするため、平常時に行うべき活動や緊急時における**事業継続方法、手段など**を取り決めておく計画のことです。




(出典：中小企業庁 HP)



BCP とは、例えば、地震や洪水などの災害が発生した時に、**どうするか？**普段から計画し、備え、訓練しておくことです。

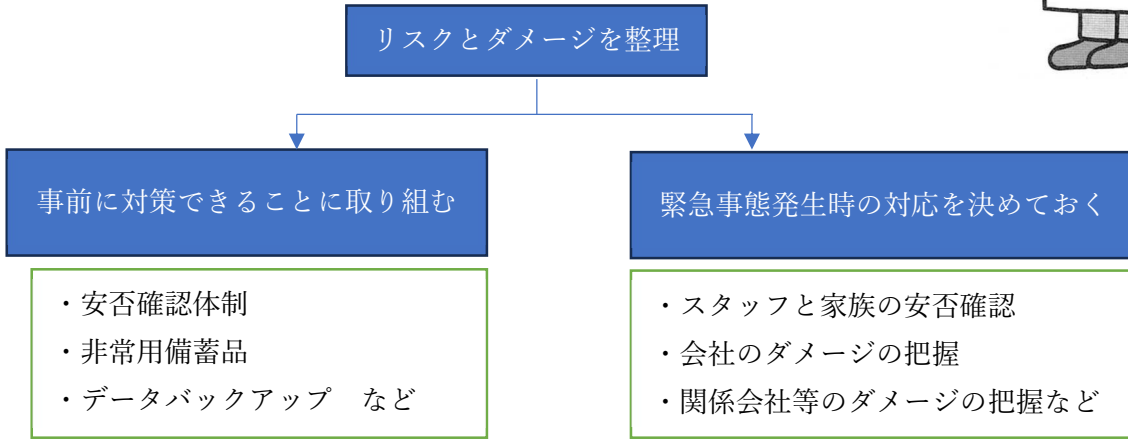


☆ まず行うこと、現在の事業の事業能力を確認すること

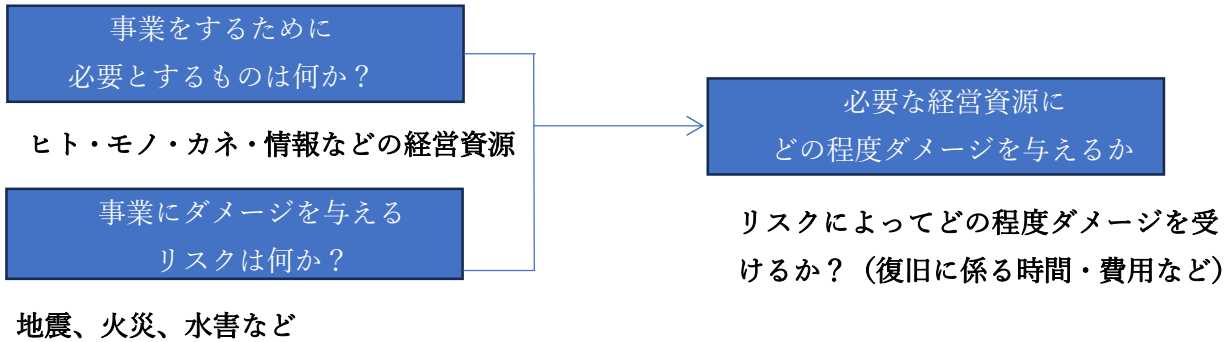
ヒト 	スタッフの家族の安否、連絡体制など
モノ	建物の耐震性など
カネ 	復旧を目的とした融資制度を把握しているか
情報 	重要な情報は、バックアップできているか
体制	事業を継続・復旧するためになにをするか

☆ BCP の策定の考え方

BCP 策定の骨子は、**事前対策**と**緊急事態発生時の対応**の2つを考えておくことです。



1. リスクとダメージを整理する。



2. 事前対策する。

経営資源	リスク	事前対策
スタッフ	災害による安否不明	安否確認ツールの導入
情報	情報の消失	クラウド等にバックアップ
資金	経常固定費の確保	銀行等への協力依頼
もの	耐震不明・転倒	耐震の確認、転倒防止

3. 緊急事態発生時の対応を決めておく。

初動対応	①スタッフの安否確認、②けがの応急手当、③損傷箇所の把握
緊急対応	① 被害状況の確認、②顧客等への連絡
復旧対応	BCPの復旧計画の実施

※出典等は、厚生労働省のBCPのポイントを参考としています。

☆BCP をうまく働かせるには！

1. 事業主の強い気持ち

「この会社は、必ず復興させる。フタッフの雇用を守る。」

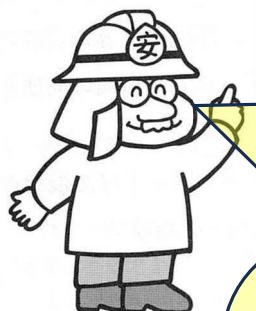
2. スタッフの協力体制を作る。

計画は、事業主の独りよがりではだめ、スタッフの協力と相互理解により、協力体制を作る。

3. 繰り返しの訓練と計画の見直し

BCP は、できたら終わりではない。運用できるように、訓練と見直しがかなめとなる。

☆BCP 策定のメリット&デメリット！



《デメリット》

デメリットはないと思いますが、強いて言えば「起こるか起こらないかわからないのに、お金をかけること。」です。
これは、補助金で担保される場合があるので、デメリットじゃないかな？

《一般的メリット》

1. リスク管理と事業継続
2. 信頼性・信用力の向上
3. 業務プロセスの可視化と効率化
4. 法令順守と社会責任
5. 従業員の安心感と意識の向上
6. 経済的損出の軽減
7. レジリエンス認証で企業価値アップ
 - ・事業継続力強化計画認定（中小企業庁）
 - ・ISO22301（事業継続マネジメントシステム）の取得

「地震やサイバー攻撃は防げません。でも、倒産は防げます。」
「BCP はコストではなく、会社を守る“投資”です。」

